





# 新春を迎えて

庁長 根津泰昇

平成二十六年甲午歳を迎え、先ず皇室の弥栄を心より寿ぐと共に、県下千二百余社の神社のご隆昌と神職・総代を始め関係各位の増々のご健勝をお慶び申し上げます。

神宮におかれましては第六十二回式年遷宮も、皇室を代表し秋篠宮殿下のご参列を仰ぎ滞りなく斎行されましたことは、ご同慶のいたりでございます。

今後は全国神社関係者大会に於いて宣言された「国民総参宮運動を力強く推進するとともに、神宮大麻の奉斎を通して、敬神崇祖の伝統が各家々に息づき、そして次世代へと確実に継承されるよう、心を一つに奉仕し、もって大御代の弥栄と世界の安寧に寄与せんことを誓う」ことが決議されたことに心を止め、神宮啓蒙に努めてまいりたいと存じます。

昨秋の新穀感謝には、神宮に思いを寄せる氏子崇敬者にご参集いただき、千九百名程の参宮団が結成されました。関係各位に心より御礼申し上げます。去年の参議院議員選挙では、

自由民主党が大勝し、ネジレ国会も解消されました。喜ばしい出来事だと存じます。

神道政治連盟が指針とする「皇室と日本文化伝統を大切にする社会づくり」「誇りの持てる新憲法の制定」「靖国の英霊に対する国家儀礼の確立」「心豊かな子供等を育む教育の実現」「世界から尊敬される道義国家、世界に貢献できる国家の確立」の実現に期待するところでございます。

神道政治連盟の活動は本年七月より関東ブロックで当県が当番県を担うことになっております。政治情勢難しい折ではありますが、佐々木本部長を中心により良い方向にリーダーシップがとれますよう役員始め関係各位には宜しくお願い申し上げます。

教化目標として子供等を育む教育には、明治天皇陛下が、国民道徳の大本をお示しになられたのが、教育勅語であります。この復活を望むところでございます。教育勅語の中に連綿と培われてきた日本人としての営み、十二の徳目として記されて

おります。「和」家族の絆を大切にするために、孝行・友愛・夫婦の和・朋友の信。「恭」他人への敬意と己への慎み深さを培うために、謙遜・博愛。「智」

学ぶことの大切さを教えよう。修学習業・知能啓発。「公」世のため人のために努力するということ。徳器成就・公益世務。「義」自分以外の大切な何かを守れますか。遵法・義勇。この

十二の徳目を教化育成することにより「美しい日本」が取り戻せると確信しております。本年もこの神道精神を教化してまいりたいと存じておりますのでお力添え賜りますようお願い申し上げます。

神社庁にありましては新職員を採用し充実してまいりました。四月より発足した不活動神社対策委員会は県の私学文書課、神社本庁の指導を受けながら研究しておりますが難題が山積されております。委員の皆様が一生懸命取り組んでおりますことご報告申し上げます。

同じく新たに発足した規則改定委員会は神社規則の見直し、市町村合併に伴う支部編成のあり方を検討しております。他にも青少年教化対策、大旗頒布増体運動等に役員一同心を一つにして取り組んでまいりますので

本年も神社関係者各位にはご協力賜りますようお願い申し上げます。

平成二十六年は甲午あつうま・四緑木星の歳です。午は昼の日の光線が盛んになる意をもっています。昼間が太陽と地上が最接近点にあつて、太陽の熱が一番盛んな時でありますので正午とか午時と言います。午年は聡明ではあるが役立たない、力はあるが発揮できないので気を引きしめること。四緑木星は陽気な雰囲気の中で諸事が整い成長する意がありますので、足元を堅めてこの一年ご活躍下さい。

今年注意が必要な方は、三碧木星生まれの方、盛運期ではありませんが、暗剣殺の凶作用を受けますので控え目に。九紫火星生まれの方は、衰退期の衰退運ながら歳破の凶作用を受けます。昭和五十七年生まれの方、昭和四十八年生まれの男性は本厄にもなりますので、焦らずに足元をしっかりと見つけて歩んで下さい。

運氣盛運の方は二黒土星、順調運の方は五黄土星、六白金星、八白土星生まれの方です。この一年ご活躍ください。最後に関係各位のご隆昌をご祈念申し上げます。

### 敬神生活の綱領

神道は天地悠久の大道であって、崇高なる精神を培ひ、太平を開くの基である。神慮を畏み祖訓をつぎ、いよいよ道の精華を發揮し、人類の福祉を増進するは、使命を達成する所以である。ここにこの綱領をかかげて向うところを明らかにし、実践につとめて以て大道を宣揚することを期する。

一、神の恵みと祖先の恩とに感謝し、明き清きまことを以て祭祀にいそしむこと

一、世のため人のために奉仕し、神のみこともちとして世をつくり固め成すこと

一、大御心をいただきてむつび和らぎ、国の隆昌と世界の共存共栄とを祈ること



### 新春を迎えて

山梨県神社総代会

会長 中 込 豊 秋

新年明けましておめでとうございませう。

県下神社関係者の皆様方には、健やかに新年をお迎えのこととお慶びを申し上げます。

また昨年皇室におかれましては天皇、皇后両陛下には五十二年振りにインドを公式訪問なされ、東日本震災でのインドの援助隊派遣に国を代表され謝意を伝え、なお国民並に各界の方々との交流を深める大役を果たされ誠に畏き極みであり、益々の御健勝をお祈り申し上げます。さて本年の政治課題の一つは北東アジアの安定でありましよう。特に中国、韓国との領土、航空識別圏、外交は混迷を深めております。国の安全あつての国民の生活であります。国土防衛は無力感を感じざるを得ず。

経済は安倍政権誕生以来、ようやく景気は上向いて参り、思い切つて財政出動に依り、円安、株高、特に輸出産業は高収益を得ており、片方輸入業界は多難であります。本年の後半には安定方向になる様に思われる灯り

は確かに見えて参りました。願わくは手堅い経済の発展と、政治安定を希望します。

省みまして昨年第六十二回式年遷宮お白石持行事。白装束に身を清め千七百人の同志「エイヤー、エイヤー」のかけ声で大きな台車を外宮近くまで四本の綱を引き、真白の布にお白石を包み新宮に奉納。十月二日内宮「遷御の儀」に参列、陽もしずみ、あたりは静まりかえり時折小枝の葉ずれの音が浄闇のなか聞こえやがて松明の灯りに足元を照らされて、浅沓のザク、ザク、ザクと玉砂利を踏む大宮司、小宮司を先頭に勅使、ご一行百數十人渡御の列次旧正宮に向かう。やや時を経て、「カケコー」、鶏鳴三声、正八時絹垣の内神儀は静々と白布の上を新殿へと出御なされ、御装束、神宝が殿内に奉納され、神事、勅使御祭文を奏上され、奉拜八度拍手両端（八度拜）の行がもれ耳に聞ゆ。

暗闇の自然林大木に包まれた神域に身をおいて目には見えなけれど御神威を感じた。私は生きて居るのではなく生かされ

ている、なお守られて居るのだと思わずにはおれない。新たな神を敬い、先祖両親に感謝し、世のため多くの人のために奉仕し、地域近隣との絆の輪を広め深めるに汗を流す事を強く思つた次第です。

さて本年は国旗掲揚推進運動について推進員を拡大して積極的な活動を展開すべきと思つた。昨年の漢字は「輪」すべてはその輪を拡大してこそ大きな「力」となりましよう。県下神職、総代総て本気で取組み行動するならばきっと大きな成果となります。議することも大切、後は行動あるのみ。

不活動神社対策ですが平成二十三年の統計に依りますと成果として八件と記されておりました。これから先も更に増えて参りましよう。不活動神社対策委員会を立ち上げたこの機会に積極的（神職、総代）役員へ全員で取組むべき問題です。先ず現場にたち状況を確り把握すること。相当の時間は必要でしょうが、先ずは我々が行動してから行政との協議を求めることが順序です。神社界最大の問題であり本年における行動の英断をお願いする次第であります。終わりに今年一年が多忙の中にもよろこびの多い年でありましよう。願ひ新春の挨拶といたします。

# 平成二十五年度神社関係者大会

平成二十五年度の神社関係者大会が神社庁・総代会共催により昨年十月二十八日、コラニー文化ホールにおいて開催された。

第一部の神宮大麻曆頒布始祭が、東山梨支部（日原盛幸齋主以下五名）の奉仕、神道雅楽会（秋山忠也会長以下六名）の奏楽、女子神職会（宮下富枝・網藏五十鈴）の「浦安の舞」奉奏により厳かに斎行された。祭典の終わりに神宮大麻・曆が日原齋主より根津庁長に授けられた。続いて、庁長より各支部長に神宮大麻・曆が頒かたれた。その後、神宮の渡邊和洋禰宜より「式年遷宮について」の講話を頂き、先日斎行されたばかりの「遷御の儀」のDVDを視聴した。

第二部の式典では、開会儀礼に続き根津庁長と中込総代会長が式辞を述べた。庁長は神道精神の発信、特に教育勅語の精神と道徳教育を広く世間に広めるための協力を呼びかけた。総代会長は国旗掲揚運動を押し進めていくことに触れ、祝祭日における国旗掲揚の協力を求めた。庁務報告の後、各功績者表彰・伝達が以下の通り行われ

た。（一）は代表者。庁規程五名（市川行治表門神社宮司）、県総代会規程四八名（坂本丈一牛倉神社責任役員）本庁規程三名（森越義建逸見神社宮司）、全国総代会規程二名（佐々木三郎北口本宮富士浅間神社役員）大麻頒布優良奉仕九名・二支部（秋山忠也穴切大神社宮司）長寿を祝う記念品の贈呈（古屋眞孝浅間神社宮司）

続いて来賓の神社本庁統理北白川道久様（二名代田中恆清総長）、神宮大宮司鷹司尚武様（二名代渡邊和洋禰宜）、衆議院議員 長崎幸太郎様、参議院議員 赤池誠章様の四名の方が祝辞を述べられた。被表彰者を代表して、貝瀬精明穂見神社宮司より謝辞があり、次いで、中田欽哉総代会副会長の先導により聖寿の万歳が奉唱され、式典は幕を閉じた。

その後、第三部の清興では立川談慶師匠による落語会が行われた。



## 被表彰者抱負

牛倉神社

総代 坂本 丈一



去る十月二十八日に開催された平成二十五年度山梨県神社関係者大会に於いて、図らずも山梨県神社総代会規程表彰を受賞、登壇のうえ表彰の栄に浴しましたこと、まことに身に余る光栄に存じ、衷心より厚く感謝申し上げます。

穂見神社

宮司 貝瀬 精明



十月二十八日に開催された平成二十五年度神社関係者大会において他の四名と共に神社庁規程表彰受賞の栄を戴き、身の引き締まる思いを抱くと共に今後一層の神明奉仕と神社護持に努め神徳の発揚に努めねばとの思いを新たに致しました。

顧みますと平成十五年牛倉神社総代に就任以来、北都留神社総代会理事や同副会長、その他神社並びに神社庁に関わる役職に種々携わってまいりました。多くの皆様の期待に応えられる業務が全うできたのかいささか面映ゆい感も御座いますが、身体と時間の許される中で精一杯努めさせて頂きました。こうした形で認められましたことは、本当に喜びに堪えません。

今後も大神様の御加護とお導きの下神明に奉仕しつつ、総代として神職の皆様と共に神社と神社界の振興に尽力して参りたく存じます。

また、当日居並ぶ多くの被表彰者を代表して謝辞を述べたが、よい経験をさせて頂きました。

現在本務の穂見神社を始め十五社の宮司を務めさせて頂いておりますが、その内何とか数社は総代さん等の尽力によって神社の改築・修繕等がなされました。しかし殆どは早急に手を付けないと神社の尊厳を損ねかねない状況であります。

これは宮司である私の責任でもある訳で、今回の受賞を機に更に神社の整備に努めて行きたいと思えます。そのためにも神明奉仕に努め神徳の発揚に努めて行きたいと思えます。

今回の受賞に対し皆様厚く御礼申し上げます。

### 伊勢神宮新穀感謝祭

甲府支部 三社諏訪神社

総代 山 中 和 男

第六十二回式年遷宮の年に伊勢神宮に甲府市三社諏訪神社の総代八名で伺わせて頂きました。この催しがあることを知ったのは今年の四月ぐらいでしょうか、神社の定例会で、武田神社様より土橋宮司、遠藤さんがお越しくださり、説明を受けました。

当初、私自身三十五歳であり、知識不足で「そのような催しがあるんですね。」そのぐらいしか思っておりませんでした。しかし、日にちが近づくにつれ、山梨伝統産業の水晶玉を神宮に奉納された方が知り合いであったり、報道等で千三百年以上続く、伝統文化を目にするにあたり、これを逃すと二十年後となくなってしまふ焦りからも、この機会に是非行ってみたいと思いはじめました。

三社諏訪神社の鎮座は淳和天皇時代八二六年からとお聞きしております。その当時の人々はどうのような生活をしていたのか、

なぜそこに神社というものができたのか、今回の神宮の新穀感謝祭を通じて思うようになりました。

推測するに、神社は安心して皆が集える中心であり、皆を結び付ける、中心であったのではないのでしょうか。

その証拠に、今回の式年遷宮で、我ら神社では近隣神社の総代の方々など、いろんな方々を結び付けて頂きました。

それゆえ、この地の神社の歴史を繋げることを強く想える参拝になりました。

山梨県神社庁甲府支部様、武田神社様のおかげさまで、バス十一台、約四百十名でお伊勢参りを挙行できたこと感謝し、改めて神社の奥深さ、強勢を感じ取り、ありがとうございました。



### 峡北支部

支部長 森 越 義 建

昨年は第六十二回を重ねる神宮式年遷宮の最も重儀である内宮・外宮の遷御の儀がつつがなく斎行を終え、この式年遷宮を国民こぞりて奉祝する中で、山梨県神社庁では、去る十一月十九日(二班) 同月二十一日(二班)の日程で、平成二十五年の恒例伊勢神宮新穀感謝祭参拝旅行を、伊勢神宮式年遷宮奉祝参拝と重ね合わせ実施することとなった。

県下八支部より多数の参加参拝を目標にして呼びかけが始まり、今回一千八百人余の人々が各地より早朝に出発し参加参拝した。ちなみに峡北支部は、甲府・峡中支部と共に一班の日程で行われ、神職・総代以下二百八十四人余が七台のバスに分乗し参加参拝をした。

当日十九日は、つつがなく遷御の儀を終えられて、一か月後の豊受大神宮(外宮)では御垣内の参拝をなす人並が長く続いており、ようやく案内の声がかかり、一同二班に分かれ、新に敷き詰められた玉石を踏み締め



て、新宮前に進み参拝をした。その後、神宮神職の案内により、通常では歩くこと入ることすらできない古殿地に参入し、旧神殿等のさまざまな状況を拝観し、感激を胸にして一同一路宿へと向かった。

二日目は皇大神宮(内宮)の参拝であるが、参宮時刻が指定されておだったので、宿を早朝に立ち、午前九時頃受付が済み案内された。風もなく静かな神域は常と異なり、遷宮を奉祝する参拝者で長い行列が続いている。ゆるやかな足取りで玉砂利を踏み進むと、眼開に照り輝く皇大神宮の御正殿が見えて来た。

ようやく参拝等を終えてほっと一息。改めて一同感激感動と誇りを胸にとどめつ帰路について。

南都留支部

支部長 渡邊 主計

去る十一月二十、二十一日の二日間、南都留支部では神宮新穀感謝祭に参拝して参りました。第六十二回式年遷宮で、神宮最大の盛儀である「遷御の儀」が執り納められた翌月につき、参加申込が多くバス十台の大団体となり記憶に残る参拝となりました。早暁、支部内各地より第二東名駿河湾沼津SAへ七時に集合し伊勢へ出発した。当初予定していた参加人員が倍増となったが恙なく楽しい旅行となった。二見興玉神社で浜参宮の後、外宮参拝。新旧御正殿、御敷地の拝観は心に残るものがあり、中でも二十年間参拝した旧正殿の佇まいには、古から連続と受け継がれる心の「ふるさと」としての神宮の姿があった。宿泊は三ヶ所へ分散となるも、各々楽しい宴会となった。各号車毎の責任神職によると、支部内神職、総代間、参加者との交流の機会があり大変良かったとの報告があり休心した。二日目、内宮参拝。次回遷宮で拝観出来る旧正殿の千木・鯉木が晩秋の日

の光に輝いていた。御神楽奉納では、超満員の殿内玉串拝礼の二拍手がピタリと揃い清々しい参拝が出来未だ耳に残っている。宮川禰宜様の話によると、遷宮直後より爆発的な参拝者で、年間千三百万人を超すだろうこと、若年層が増加し特に土日休日は一日中対応に追われているとのことだった。今回遷宮をマスコミが大きく報道したことや、時代の流れの中で一生に一度でも伊勢まいりをしたいという日本人の崇敬心が継承されている証である。記憶に残る遷宮の年に無事大勢で参拝出来たことは有り難く、南都留支部関係者に感謝したい。



第六十二回式年遷宮記念

全国神社関係者大会

神社本庁評議員 深澤 哲夫

神社本庁が主催する第六十二回式年遷宮記念全国神社関係者大会が平成二十五年十一月二十五日、伊勢市・県営サンアリーナで池田厚子神宮祭主様ご臨席のもと、全国から千三百人（本県十三名）が参加、盛大に開催されました。

第一部の式典では開会儀礼の後神社本庁総代理・田中総長)の式辞では「社会の変化が著しく価値観の多様化する中で神宮当局を始め全国神社関係者が遷宮啓発に尽力し、多くの氏子・崇敬者から奉賛の真心が寄せられたことは敬神崇祖の伝統が受け継がれていることの証であり、遷宮を機に、神社関係者が決意も新たに神社神道興隆と神徳宣揚に努められるよう願う」と述べられました。

続いて池田厚子祭主様からは、「第六十二回神宮式年遷宮に捧げられた奉賛の数々を思い、感動を胸にする。皆様には、今後も健康で神明奉仕に努められるよう、心から希望する」とのお言葉がありました。

来賓祝辞で鷹司大宮司は、十一月天皇陛下にお目にかかり、内宮・外宮の事、特に遷御の儀が無事斎行された旨をご報告されたことの説明と、奉賛会を始め関係者の奉賛活動に心励まされたことを述べられ、深い感謝の意を表されました。

大会宣言では、小串和夫神社本庁副総長が、「これからは国民総参宮運動を力強く推進し、神宮大麻奉斎を通じて敬神崇祖の伝統が各家庭に息づき、次世代へと確実に継承されるよう、心を一つに奉仕し、大御代の弥栄と世界の安寧を祈る」宣言案を読み上げ参加者の拍手を以て採択されました。



# まんが古事記

## てんそんこうりん (第三話)



「全国神社保育団体連合会」提供  
 問い合わせ 東京都渋谷区代々木一―一―二  
 電話 〇三―三三三九―八〇―一  
 一冊 一、二〇円

神社本庁内



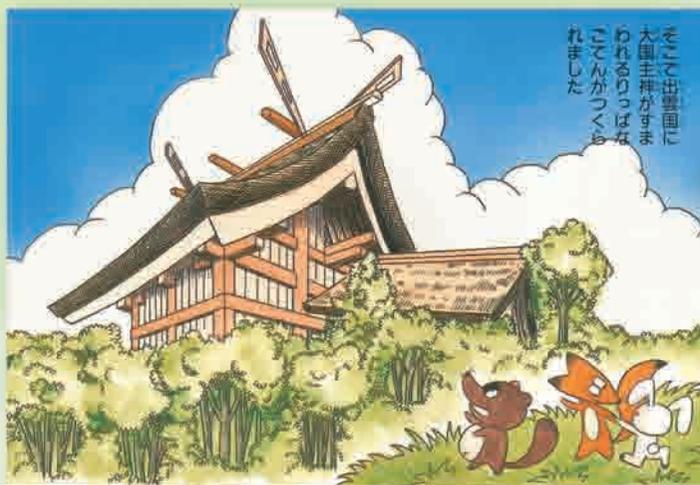
お子さん、お孫さんと、  
 神話の世界をお楽しみ下さい。

### あらすじ

葦原中国は、  
 大國主神が国造  
 りをされていま  
 したが、天照大  
 御神さまは、こ  
 の国をもつと豊  
 かで、平和な国  
 にされようと、  
 瓊瓊杵尊を天降  
 らせることにし  
 ました。

そこで建御雷  
 神を使いとして  
 葦原中国に赴か  
 せ、大國主神に  
 天神の御子を天  
 降らす旨を伝え  
 ました。

大國主神には  
 事代主神、建御  
 名方神という息  
 子がいましたが、  
 この二人の息子  
 が納得するなら  
 ば、国をたてま  
 した。



そこで出雲国に  
大國主神がすま  
られるりっぱな  
ごてんがつくら  
れました



建御雷神は  
高天原にもどり  
天照大神さまに  
ご挨拶いたしました

それは  
ごてんごうでした  
さっさく兼中殿  
に御子を天降らせ  
まじよう



天照大神さまは  
話をきかれると

だれか  
理瑳村神を  
よんで来て  
ください

かしまり  
ましたか



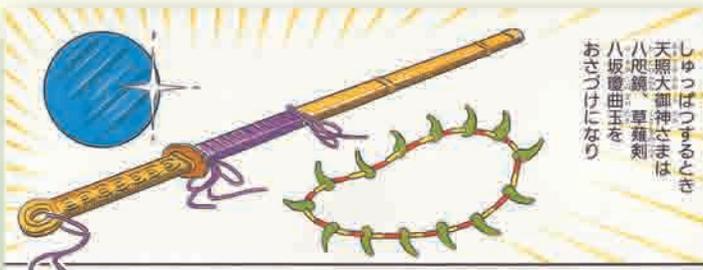
大御神さま  
およびで  
しょうか

これから  
すぐにくたつて  
兼中殿を  
おさめなさい



しょうち  
しました





(二六五号 第四話へ続く)

# 神殿新嘗祭

東八代支部 支部長 志村重治

去る十一月十二日、午後一時十分、山梨県神社庁神殿に於いて平成二十五年神社庁新嘗祭が斎行された。

奉仕員は当日午前十時には神社庁に集合し、斎場を整え、神饌を調整し、最後の習礼を綿密に行った。

根津泰昇山梨県神社庁長を始め、中込豊秋県神社総代会会長、古屋真考顧問、宮川睦武前県総代会長、県内神職、氏子総代、神社関係者多数が参列し、東八代支部神職の奉仕により斎行された。

祭典奉仕神職は、斎主志村重治若宮神社宮司、副斎主津金八千代比枝神社宮司、祭員植松真芳淺間神社権禰宜、中川武仁甲斐奈神社宮司、吉川薫天神社禰宜、典儀桃井一祝美和神社宮司。雅楽を奏すは山梨県神道雅楽会。和琴、

鞆鼓 秋山忠也、太鼓 中村宗彦、笙 松田公仁、箏 篠原康正、篳篥 内藤寛、以上の



奉仕員である。

先ず修祓。祓詞奏上後、大麻、塩湯にて神饌、玉串、各参列者を祓い清め、次に斎主一拝。次に開扉。次に献饌伝供にて御前に神饌を供え、次に斎主祝詞奏上。次に玉串拝礼、斎主、根津庁長、中込総代会長、古屋顧

## 全国教化会議に参加して

山梨県神社庁 参事 飯田直樹

恒例の全国教化会議が去る十二月二日、三日の両日神社本庁において全国の教化担当者七十二名が参集し開催され、本県からは古屋教化委員長と参事が出席した。

「今期の教化実践目標の総括と今後の課題について」をテーマとし、各神社庁・神社でのこれまでの取り組みを相互に確認するとともに、次期の教化実践目標の設定に向けて、二日間に亘る分散会、全体会で検討・協議が行われた。

初日は開会式の後、本庁原田教化部長から本庁の教化施策の説明があり、引き続き神奈川、北海道、福島、富山、熊本の各

問、宮川総代会顧問が玉串拝礼。次に撤饌。次に閉扉。次に斎主一拝。是を以て奉仕神職退下し、平成二十五年の新穀感謝、神殿新嘗祭の神事が厳肅に斎行されました。

何年か毎に各支部に祭典の当番が巡ってくるが、奉仕員を決め、習礼をし、祭式を始め様々な事を確認し、奉仕員同士調和を計るなど祭典奉仕の中で大変良い勉強となる一時である。

神社庁から活動報告がなされた。

この後、四つの分散会に分かれ各県の活動事例をもとに「神宮奉賛活動」「神道の自然観の啓発」「伝統芸能の次世代への継承」の三点の活動報告と課題、「教化実践目標」六項目の活動報告と課題などについて意見交換がなされた。

翌日の分散会では前日の意見を纏め、更に次期「教化実践目標」設定に向けての現状の課題や今後の取り組みについても話し合いがなされた。

全体会では各分散会の座長からの報告がなされ、遷宮で盛り上がった気運を落とすことなく神宮大麻頒布や参宮促進等の神

宮奉賛活動、皇室敬慕の念を喚起・醸成するための活動、地域の抛り所たる神社の役割を果たすための活動、鎮守の杜を通じた神道の自然観啓発の活動、国旗国歌の定着や祝日の意義を啓発する活動など、多岐に亘る報告や意見発表がなされた。また東日本大震災からの復興に向けた意見や活動報告もあつた。

また、全体会の中で山梨県の教化活動の一つである「国旗掲揚と祝祭日の意義啓発」新聞突出広告が取り上げられ、他都道府県の教化委員からも大いに注目された。

一方で、現代社会を取り巻く環境が大きく変わる中で、後継者問題や過疎地の問題、氏子意識の希薄化、家族形態の多様化への対応など、神社界は様々な問題を抱えている。

来年度には、今回の全国教化会議の内容も踏まえた教化実践目標が設定されるが、全国的な教化担当者の横の繋がりを深めるとともに、教化活動資料を共有したり共同利用するなど、今まで以上に連携を強くしていく必要があると感じた。



### 神社庁顧問参与会

恒例の神社庁顧問参与会が十二月十日、甲府の古名屋ホテルで開催された。

第一部の例会では、根津庁長より新参与三名に委嘱状が交付され、根津庁長、中込総代会長よりご挨拶をいただいた。その後、飯田参事より神社庁事業概況報告が行われた。

第二部では、山梨県私学文書課小澤浩主査、神社本庁総務部小野崇之部長より「不活動神社対策」というテーマのもと、それぞれのお立場で山梨県の宗教法人の現状、不活動法人（神社）への対策の必要性やその具体的方法などについての講話を頂いた。第三部の懇親会は、終始和やかに懇親を深め、盛会裡に終宴した。



## 新参与所感

### 表門神社

宮司 市川 行 治

平成二十五年一月に神職身分二級に任ぜられ、四月には峡南支部支部長を拜命、併せて神社庁理事に選任されました。

私にとって、昭和四十九年五月に神職を拜命して以来の大きな身分変化の年となりました。

峡南支部は、二百九十社の神社の内不活動神社が六十九社、また、神社関係者名簿でも宮司不在神社が多数有ります。

地域の人口は、六万三千四百余人（二十五年十二月現在）で高齢化率は約三十五%で他地域を十%以上上まわっています。更に、平成四十七年には約四万四千四百人と現在の人口の六十五%にまで減少すると推計されています。

つまり、今後も更に不活動神社が増加すると共に、祭典を含む地域活動が行えない限界集落が増加すると見込まれています。こうした厳しい支部の事情を踏まえ、根津庁長を始め諸先輩のご指導の下、地域の歴史と伝統を守り、より良い形で、次の世代に引き継げるよう努力して参りたいと考えています。

### 北口本宮富士浅間神社

権禰宜 小佐野 文 男

金鳥飛び、玉兔走ると申しますが、振り返ってみると、今更ながら時の流れの速さに驚くこの頃です。私は昭和四十八年に國學院大学を卒業して公務員となり専任として三十有余年間、生涯学習の普及に取り組んでいました。

その頃、火祭りの神輿に供奉する父の齋服姿が年々小さくなっていくを痛感することしばしばでした。そんな事から、神職養成講習を受講し、平成二年に北口本宮富士浅間神社に非常勤としてご奉仕させて頂くこととなりました。

社会教育主事は夜間・土日出勤は当たり前でしたが、こうして神職をも続けてこられたのは同神社の皆様、更には寛恕のお心でお導き下さった方々のお陰と心より感謝致しております。

この度、参与という重き役目を拝受し、これからは、幼な子への「ノーノーさんなむなむ」から始めてお年寄りまで、神様と日々歩んでいく事の大切さを分かりやすくお話ししていこうと錬磨の決意を新たに致しました。

### 武田神社

権禰宜 網 藏 五十鈴

過般、師走十日の参与会に列し、会の皆様の神社に対する真心を見るに付け、しみじみと感じ入った次第であります。一知半解な者ゆえ、どうぞ、これからもご叱正の程願ひ上げます。

神職となり二十年余り、今年神職身分二級の拜命を受け新に参与として認めて戴きました事、大変嬉しく、有り難く感謝の気持ちと、改めて身の引き締まる思いであります。

亡き父の後を継ぎ神職となり、縁あり武田神社に奉職致しました。何も分らない私を諸先輩又関係の皆様のおたたくいご指導を賜り、お陰様で今日までご奉仕する事ができました。

まだまだ未熟な私であり勉強する事が沢山ありますが日々研鑽して、総代を始め氏子と一緒に地域の活性化を図り進めて行きたいと思ひます。

これからは大神様の恩頼を戴きながら、皆様のご指導の下、頑張る所存でございます。宜しくお願ひ申し上げます。

### 本庁教誨師研究会開かる

教誨師 佐々木 高 仁

第六十四回となる標記研究会が十一月七日・八日の二日間、札幌において、全国から四十八名の教誨師が参加して開催された。

開会式では、田中恆清総長が主催者として挨拶され、「教誨は本庁教化事業のなかでも重要な事業であり、各施設駐在の教誨師の役割は重い」旨を話された。今回の研究会の主題は最近再犯者の増加が報告されていることから「再犯をしない生き方を促す教誨」である。

基調講演を、札幌矯正管区成人矯正第二課長の竹内正雄氏が「矯正における再犯防止の取組」と題して発表。氏は、満期釈放より満期前釈放の方が再犯率が低い事、出所後の帰宅先と就職先がない者ほど再犯率が高いことを指摘した。

その後全体会が開かれ、私を含め三名の教誨師がそれぞれ意見を発表し、参加者からの質疑に応答した。

二日目は、全員で北海道神宮に正式参拝した後、大倉山展望台で小雪の舞うなか札幌ウインタームュージウムを見学。続いて新装なった札幌刑務所を見学した。

### 神社庁野球部活動報告

神社庁野球部

監督 稲 葉 政 信

野球部は、例年五月から十月の半年にわたり、活動をしており、シーズンに入る時には、青年会OB組と青年会現役組とで交流試合を行い、今シーズンに向けて弾みを付けます。また、シーズンが終わる時も、球納めとして同様に交流試合を行い、今シーズンを振り返ります。シーズンを通しての主な試合は、神青協一都七県野球大会と、その前哨戦としての神社本庁戦です。

まず、神青協一都七県野球大会については報告をします。昨年には神宮式年遷宮の為、九月六日に明治神宮外苑グラウンドにて大会が行われました。また開催日が神宮大

麻頒布始祭等の神宮諸行事と重なった為、秋山総監督を始めとする数名の主力選手を欠い



一都七県野球大会

での出場となり、メンバー集めに苦慮しましたが、植松助監督、藤巻主将、丹澤副主将の努力により若手メンバーを中心に計十三名集まり、四試合戦うには十分の戦力となりました。結果は、  
第一試合 13-3 埼玉に勝利  
第二試合 3-15 神奈川に負  
第三試合 5-4 茨城に勝利  
第四試合 6-3 群馬に勝利  
となり、第二試合が勝てなかったのですが、ベスト四には入れませんでした。消化試合含めまああの成績でした。

次に、神社本庁戦ですが、やはり神宮式年遷宮の年ゆえに、神社本庁職員は多忙であったのですが、何とか時間を工面して頂き、十月三十日に東京都世田谷区の砧球場でナイター戦を行いました。本庁戦は、本庁職員と山梨県内神職が唯一、野球を通じて親しく交流できる場であり、神職として様々な活動をしていく上で、大変有意義な時間である事をメンバー皆が認識しています。今回は若手を始め、一都七県野球大会では出場できなかったメンバーも参戦できたので、神社本庁野球部の胸を借り、5-1で山梨県が勝たせてもらいました。交流戦後も、場

所を宴席に移し、大変和やかな中で、神社本庁戦を終える事ができました。本年は山梨県で行う予定です。

最後に、永年総監督を務めてこられました羽中田先輩におかれましては大変お疲れ様でした。神社庁野球部が、野球を通じて神社界に貢献できるように、秋山総監督を中心に、植松助監督、藤巻主将、丹澤副主将、稲葉、他メンバーで野球部を盛りたてていきたいと思っておりますので、山梨県内神職総代各位におかれましては、ご支援ご協力を切にお願い申し上げます。平成二十五年度野球部活動報告に代えさせて頂きます。



神社本庁戦





### 神殿例祭、第62回神宮式年遷宮奉賛会 山梨県本部解散式、神職初会のお知らせ

神殿例祭、第62回神宮式年遷宮奉賛会山梨県本部解散式及び神職初会を兼ねた感謝の集いを下記の日程で斎行いたします。

記

#### 1、神殿例祭

日時 1月29日(水) 午前10時30分

場所 山梨県神社庁神殿

#### 2、第62回神宮式年遷宮奉賛会山梨県本部 解散式

日時 1月29日(水) 午後0時30分

場所 ベルクラシック甲府

#### 3、第62回神宮式年遷宮奉賛会山梨県本部 感謝の集い

日時 1月29日(水) 午後1時30分

場所 ベルクラシック甲府



### 神殿祈年祭のお知らせ

神殿祈年祭を下記の日程で斎行いたします。

記

1、日 程 2月13日(木)

神殿祈年祭 午後1時30分

講 演 午後2時30分



### 靖國神社、山梨県護國神社参拝旅行

神道政治連盟山梨県本部では、恒例となりました靖國神社、山梨県護國神社参拝旅行を3月以降に実施するよう企画しております。詳細な日程が決まりましたら御案内致します。



### 表紙写真説明

第六十二回神宮式年遷宮において、平成二十五年十月二日に浄園のなかで厳肅に執りおこなわれた遷御の儀によって、天照大御神がお遷りになった皇大神宮(内宮)の新宮です。

### 神職研修会の案内

恒例の研修会を左記の日程で実施致します。

神職は生涯の研修を通じて己を磨くことにより氏子・崇敬者の信頼を得ることが出来ます。他支部の研修を受けることもできますので、積極的にご参加ください。

記

#### 一、日程と会場

##### ①甲府支部

三月十一日(火) 神社庁

##### ②東山梨・東八代支部

二月二十六日(水) 石和八幡宮

##### ③峡南・峡中・峡北支部

三月十五日(土) 神社庁

##### ④南都留・北都留支部

五月二十八日(水)

勝山富士御室浅間神社

受付 八時三十分  
開講 九時

